

What's on your Summer Book List?



SUMMER VACATION



さあ！いよいよ夏休み。
1学期は、どんな本との出会いがありましたか？
夏は、たっぷり時間があります。普段できない事に挑戦して、体にも心にも栄養を、しっかり充電してください。今回は先号に続き、新しい先生方のお薦め本を紹介し、読書感想文課題や、夏の読書の参考にしてぜひ読んでくださいね。



勝手に Best 5

1学期貸出冊数の多かった本

- 1位 『ぼくはイエローで、ホワイトで、ちょっとブルー』
- 2位 『きみたちはどう生きるのか』
- 3位 『破滅の刑死者』
- 3位 『日本探偵小説』 おススメです！
- 3位 『かがみの孤城』

新転任の先生のお薦め本

第2弾



小島 由敬先生 (英語科)

『キノの旅-the Beautiful World』

時雨沢恵一著

自分自身はマンガ・小説含め、本をよく読む方で、今の自宅には約1500冊くらいの本があると思います。『キノの旅』はその中で高校生にすすめる本として選んだものです。触れてみてほしい本は本当にたくさんありますが、その中でもライトノベルの部類でもあり、読みやすい本だと考えて選んでいます。



本の内容は、一人のライダーが言葉を話すバイクと地球ではない世界を旅する、という内容です。主人公キノは「一つの国に3日滞在」というルールで本当に様々な国(法律や領土の構造、人々etc...)を訪れます。どこかで聞いたことのあるような内容の法律や人々の不思議な習慣等に触れていきます。

その中でちらっと匂う「こんな社会になったら嫌だな」「これは面白いかも」と言った風刺がとても面白く、何だか勉強になります。こんな国があったらどう思うか、なんて話すのも楽しい内容になっています。ぜひ読んでみてください。

山口 綾賀先生 (数学科)

『世にも美しき数学者たちの日常』

二宮敦人著

「数学が苦手」「数学の面白さがわからない」「数学はただ答えを求めるためだけの学問だ」と感じている人にぜひ読んでいただきたい一冊です。



数学者の方々が数学のどこに魅力を感じるのかなどを作者がインタビューし、誰が読んでもわかりやすいように例え話を用いながらまとめられているのでとても読みやすいです。数学に苦手意識のある方、一度騙されたと思ってぜひ読んでみてください。

井伊谷 吉平先生 (保健体育科)

『入社1年目の教科書』

岩瀬大輔著

私が社会人1年目になるということで、中学時代の恩師の先生から、プレゼントしていただいた本です。



この本は岩瀬さんが大切だと感じ実践している3つの原則と50のルールが書かれています。私は社会人になってからこの本を読み始めましたが、生徒の皆さんには高校生の時期に読んでいただき、一つ一つの項目を心に落とし込み、行動を少しずつ変えていって欲しいと思います。社会人になるときは立派な人間になっていると思います。

☆ お知らせ ☆

夏休み中の開館日

July 7月 21日(水)~30日(金) (土日祝を除く)	August 8月 6日(金) 出校日 19日(木)~25日(水)
★貸出冊数 一人5冊まで	
開館時間 9:00~ 16:00	

図書委員会からのお願い

図書委員会では、

9月10日(金曜日)の「丘陵祭」にて「古本市」を開催します。

そのため、自宅にある読み終えた本、読む機会がなくなった本を9月9日(木曜日)まで募集中です。小説、実用本、絵本、雑誌(漫画、全集本、辞書は除きます)を受け付けますので、持ってきた本は、図書室までお願いします。収益金で生徒希望の本を購入する予定です。

皆様のご協力をお願いします！



縣 智奈先生 (クリエイティブデザイン科)

『ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー』
プレイディみかこ著

私がこの本と出合ったきっかけは、テレビで紹介されているのを見て、紹介のされ方が上手かったのか、私がちょろかったのか、まんまと買ってしまったのが始まりでした。この本について簡単に説明すると人権についての内容なのですが、色々な問題に対して自分が知らなかった、こんな考え方があるのかと様々な視点で意見が書かれています。



物事を考える上での視野がとても広がる1冊なので是非読んでみて下さい。

第12回校内読書感想文コンクール作品募集

書いてみようよ、自分の言葉で。

☆提出日・提出先

1年生(夏休み課題) 8/6(金) クラス担任へ提出

2.3年生(自由応募) 8/30(月) 図書館へ提出

☆応募規定

400字詰め原稿用紙4枚以上5枚以内
題名・学校名・氏名は字数に数えません。

☆良い作品には

最優秀賞・優秀賞・優良賞が贈られます。

最優秀作品は青少年読書感想文愛知県コンクールに応募します。



課題図書高校の部



『水を縫う』 寺地はるな著
普通って何? 普通の人なんていない。普通の家族なんていない。世の中の“普通”を越えていく6人の家族の物語。



『兄の名は、ジェシカ』 ジョン・ボイン著
一人の子供がジェンダーや性的思考という問題にどう向き合っていくのかを、わかりやすく、誠実に、時にコミカルに描く。



『科学者になりたい君へ』 佐藤勝彦著
どうすれば科学者になれるのか? 著者の科学者人生を紹介しつつ、科学者とはどういうものなのか、科学者になるためには何をしたらよいかなどを教えてくれます。